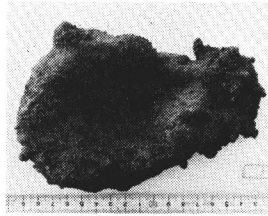


岩内団地の先住者

岩内遺跡

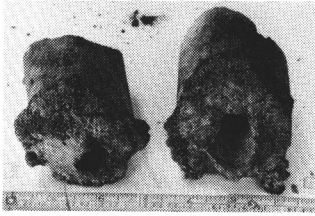
御代田岩内団地造成中に大量の鉄滓（てつし）が見られました。鉄滓というのは、鉄を溶かしたときにできるもので、製鉄か鍛冶を行ったところにみられます。

（鉄 滓）



鉄滓に混じって羽口（はぐち）と呼ばれる土管の細いものの折れたものも出ました。これは、空気を送って火力をあげるために使われたものです。

（羽 口）



鉄滓は、長径十五〜二十

センチもあるものも多く、重さは五〇〇グラムから一キログラム、中には二キロに及ぶものもありました。羽口は、先がやや細くなり先端は高温のためとけていますが、外径は八センチ近くあり、先端でも六センチぐらいで、中に直径二センチぐらいの穴があいています。鉄滓、羽口ともに比較的大型なのが特徴です。

時代等についてはわかりませんが、近くに鍛冶荒神が祀られていることなどから、あまり古いものではないようにみられます。

御代田氏の居館

花館跡

御代田、五幸山の麓に近いこのあたりに、かつて館があったとこのことで未だに地名に残っています。

口伝によると、三春城主田村氏の臣御代田惣左衛門の居館といわれています。